

2024年度事業報告

特定非営利活動法人
フードバンクあったか元気便

はじめに

島根県の「子どもの生活実態調査結果」（2024年）では、「生活困窮層」が前回調査（2019年）13.7%から20.1%に増加しています。

コロナ感染禍後の「社会的後遺症」が残るなか、長期化する物価高騰で利用者の「くらしと子育て」は、厳しさが増えています。

また、お米の「品薄」と価格の高騰をはじめ諸物価の値上がりは、フードバンクの事業運営にも大きな影響を及ぼしています。

○ 協働・連携で「おやこde思い出づくり」の場が広がりました。

- 1：24年度の食品提供の取り組みは、あらたに二中・母衣小・川津小、朝酌小の4校が加わり、松江市内の小・中学校24校に広がり、のべ2,231世帯、のべ8,145人に食品提供総量27.6トンを届けました。
- 2：「中学3年生の進路・進学『応援塾』」は、NPO スペース、島根大学山陰研究センターに島根大学学生サークル BBS も加わり、不登校の子どもたちも参加するなど「学習と居場所」としての役割も果たすことができました。22人が登録し、のべ73人が受講、学生講師・ボランティアなど、のべ101人が受講を支えました。
- 3：フリースクールサクラ高等学院と「夏休み野外企画」、クリスマス会を取り組みました。古志原地区では地区社協との共催で「お昼ごはん+学習応援」を開催しました。子どもたち62人をはじめ津田・古志原の2つの校区の地区民児協・地区社協・食生活改善推進協支部などから総勢176人が参加しました。
- 4：「おかあさんのためのレスパイト応援」は、のべ7件、のべ16.5時間にとどまり、利用事例の紹介チラシを作成し利用促進を呼びかけました。
- 5：県立大学松江キャンパスの「こどもだいがく」、同短大音楽研究室の「キッズシアター」、三瓶青少年交流の家の「のびのびキャンプ」、「田植え・稲刈り」（連合島根主催）など、主催者と連携した取り組みが広がり「おやこ de 思い出づくり」や「おかあさんためのレスパイト応援」の機会となりました。
- 6：ホテル一畑など4つの企業・団体と共催し19の企業・団体の協賛で新たに取り組んだ「中学校卒業をみんなで祝う集い」は、卒業生・おやこ40人をはじめ60人が参加し交流の場となりました。

○多様なスタイルの「支える輪」が広がりました。

- 1 : あったか元気便の取組みに参加したボランティアは、のべ1,828人、前年比3割増加となり大きな広がりになりました。
- 2 : 「令和の米騒動」では、「3千円の寄附で、あったか元気便にお米10kgを送ろう」など、これまでにない範囲と層に「支える輪」が広がりました。一方で、お米は年間約3ト、食品は約5ト購入しました。
- 3 : フードドライブ協力団体・企業は、イオングループ県内10店舗の参加をはじめ20公民館など115団体・企業となり、前年比3割増加となり、これまでの最多となりました。
また、生協しまねの「注文書からできるフードドライブ」やJAくにびき地区本部女性部と市内11店舗での「ひとり一品運動」など各団体の特徴をいかした新たなスタイルの取組が生まれました。

○いろいろな入口から「いつでも、誰でも、どこからでも」

- 1 : 「あったか元気便応援自販機」やクラウドファンディング、共同募金テーマ募金など、寄付金総額は予算計画を上回りました。
- 2 : JAしまねの買い物ポイント寄付や「遺贈寄附」の取組みもはじまりましたが、今後の広報・宣伝が課題です。

○町内会にも、全国にも情報発信しました。

- 1 : 「あったか元気便だより」は、4回発行しました。また、フェースブックは77回情報発信を行い「お米SOS」などの際にはシェアが広がり、フォロアー335人超となりました。
- 2 : 新聞報道5回やテレビ報道4回などマスコミでも取り上げられました。24年度から、あったか元気便の取組が市内の小学校で教材として取り上げられました。
- 3 : 全国規模の講演会や町内の小さな報告会など、のべ32回、1千人超となり、利用者の実情やあったか元気便の取組みを知らせる機会ができました。
- 4 : 全国的な月刊雑誌や季刊雑誌などでも、取組みが紹介されました。
- 5 : 松江市農業祭、地SUN地SHOW祭りなどで、大きなイベントで幅広い市民に取組みの宣伝・広報を行いました。

